

鎌倉七口（切通し）の中でも昔の姿をよく残しており、歴史を感じながらゆっくりと散策を楽しめる唯一の切通しが「朝比奈切通し」です。季節は新緑の5月。往時をしのびつつ、足元に気をつけながらハイキング気分で鎌倉を楽しみましょう。花の寺「瑞泉寺」を経由して「永福寺」跡を訪ねます。「永福寺」は、源頼朝が奥州藤原氏を攻め滅ぼした後、敵味方の菩提を弔うために建立した浄土式庭園を持つ大寺です。鎌倉の鬼門に当たる北東に作られ、特徴的な建物と池を持っていてその中心的な建物は「二階堂」と呼ばれていましたが、「二階堂」は今もこの辺りの地名になっています。

朝比奈切通し	錦屏山瑞泉寺	永福寺跡	荏柄天神
 <p>鎌倉七口の中でも最も峠の標高が高く、1241年当時の三代執権・北条泰時が自ら先頭に立って開削工事が進められた。当時の金沢には「六浦津（むつらつ）」と呼ばれる天然の良港があり、鎌倉と六浦を結ぶ朝比奈切通しは重要な交通路となった。人や物資の流通だけでなく、当時塩の産地であった金沢から鎌倉へ塩を運ぶ「塩の道」ともなっていた。その一方で狭い道をさらに通りにくくする「置き石」や、道の両側の崖上に兵を潜ませて敵の頭上から弓矢による攻撃を仕掛けるための「平場」を設けるなど敵の侵入を防ぐ防御機能も併せ持っていた。江戸時代には鎌倉への観光の道としても知られ、明治期には峠の頂上付近に茶屋があったという記録も残る。その後も昭和31年に現在の県道204号線が開通するまで街道として使われた。昭和44年（1969年）に鎌倉七口の一つとして重要な遺構との理由で国の史跡に指定され、平成20年（2008年）には切通し周辺の「やぐら」群や鎌倉の守護神とされる熊野神社等も、切通しを構成する一部として史跡に追加指定された。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨済宗円覚寺派</li> <li>・創建：1327年（嘉暦2年）</li> <li>・開基：二階堂道蘊（鎌倉幕府政所執事）</li> <li>・中興：足利基氏（足利尊氏四男）</li> <li>・開山：夢窓国師（夢窓疎石）</li> <li>・本尊：釈迦如来</li> </ul> <p>鎌倉公方の菩提寺として、鎌倉五山に次ぐ関東十刹に列せられ、開山の夢窓国師は後醍醐天皇や足利尊氏も深く帰依した高僧で、作庭家としても有名である。昭和45年に発掘・復元された仏殿背後の庭園は、夢窓国師の作として京都の天龍寺、西芳寺（苔寺）等と並んで国の名勝に指定されている。鎌倉石の岩盤に地形と地質に応じて巧みに施された彫刻的手法による庭園は「岩庭」とも呼ばれ、書院庭園の先駆けをなす鎌倉に残る鎌倉時代唯一の庭園である。中央の大きな洞は「天女洞」と呼ばれる座禅道場。境内は季節毎に様々な花で彩られ、花が絶えることが無く、特に水仙が有名で「花の寺」と呼ばれている。文学とも縁が深く、久米正雄の墓、高浜虚子・久保田万太郎・大宅壮一などの碑がある。</p>	 <p>鎌倉時代の初めに、源頼朝が鎌倉に建立した三大寺院（鶴岡八幡宮寺、勝長寿院、永福寺）の一つで、1194年頃に完成したとされる。1189年に奥州藤原氏を攻め滅ぼし、その際に弟の義経も自害したが、その戦乱で亡くなった者を敵味方の区別無く弔うために建立したとされる。頼朝は当時の大藏御所の北東の鬼門にあたるこの場所を選んで、藤原一族と義経の怨霊を封じることが本当の狙いだったといわれている。永福寺は、頼朝が平泉で見た中尊寺や毛越寺などの壮麗さに打たれ、平安末期から作られるようになった浄土式庭園を備えた大寺院を自ら現場を指導して作った。西方浄土の方向である西を背に、中央に本堂である二階堂、その両側に阿彌陀堂と薬師堂を配し、それぞれが幅の広い廊下で結ばれ、更に翼廊と呼ばれる廊下が釣殿まで延びていた。庭には大きな池があり、中央に反りを持つ端がかかっていた。永福寺は鎌倉滅亡後も室町幕府に保護されたが、度重なる火災を経て1405年の火災後は再建されることはなかった。</p>	 <p>荏柄天神社の略年表によると、長元元年（1104年）8月に雷雨と共に雲上に立つ黒い装束の天神画像が降臨したとある。天神の祟りを恐れた里人が社殿を建ててその画像を納め祀ったとされる。ご祭神は菅原道真で、福岡の太宰府天満宮・京都の北野天満宮と共に三大天満宮とされている。古くはこの地が「荏草郷」（えがや）と呼ばれていたのが「えがら」に転じて「荏柄」との表記になったと考えられている。源頼朝は幕府の鬼門にあたる当社を崇敬し、後の足利、北条、豊臣、徳川によっても守られた。現在は学問の神、正直者、努力する者を助ける神として崇められる。本殿は、元和8年（1622年）に鶴岡八幡宮の若宮旧本殿を移築したもので、正和5年（1316年）造営の希少な中世建築で、現存する鎌倉最古の寺社建築とされる。境内の一角には漫画家の故・横山隆一氏（鎌倉在住）をはじめとする漫画家154名が描いたカッパのレリーフがあるほか、故・清水崑氏愛用の絵筆を納めた「かっぱ筆塚」がある。</p>